

かんこく むかしばなし  
韓国の昔話

はなし  
アオガエルのお話



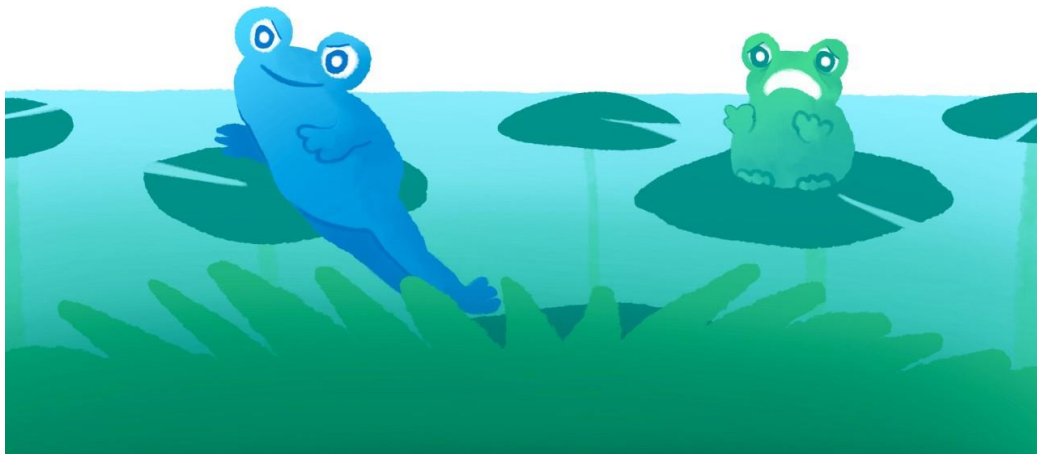
はなし ひろしま す かんこくご せんせい せんせい  
このお話は、広島にお住まいの韓国語の先生、鄭景太先生の Web サイト  
み せんせい りょうしょう え たばた みつえ  
で見つけました。そして、鄭先生のご了承を得て、田畑サンドーム光恵が  
よ もの か か すてき  
「読み物いっぱい」のために書き換えました。また、素敵なイラストは、  
す か  
ニュージーランドに住むトレース・ニールさんが描いてくださいました。

せんせい あたた  
鄭先生、トレース・ニールさん、温かいサポートをありがとうございました。

はなし かんこく むかしばなし  
このお話は韓国の昔話です。

むかしむかし ところ むすこ す  
昔々ある所に、アオガエルの息子が住んでいました。

むすこ かあ い き  
このアオガエルの息子は、お母さんの言うことをぜんぜん聞きませんでした。



かあ やま あそ い むすこ かわ あそ  
お母さんが「山で遊びなさい」と言うと、アオガエルの息子は川で遊びました。

かあ かわ あそ い むすこ やま あそ  
お母さんが「川で遊びなさい」と言うと、アオガエルの息子は山で遊びました。

かあ い むすこ い  
お母さんが「ケロケロ」と言うと、アオガエルの息子は「ロケロケ」と言いました。

かあ こま い  
お母さんは困って言いました。

わたし い  
「おまえはどうしていつも私が言うことと  
はんたい  
反対のことをするの。」

かあ  
お母さんは どうしていいかわからないわ。  
ほんとう びょうき  
本当にストレスで病気になっちゃうわ。」



でも息子のアオガエルは 自分が悪いと思いませんでした。そして、やっぱり  
お母さんの言うことを聞きませんでした。

ですからお母さんはとても悲しかったです。そして、お母さんはついに病気に  
なっていました。

息子のアオガエルは

「お母さん、今までごめんなさい。死なないで。」と泣きながら言いました。



でもお母さんは  
「私はもうだめよ。私が死んだら 私の体は川の近くに埋めてね。」  
と言って死んでしまいました。

じつ かあ むすこ じぶん い はんたい  
実はお母さんは 息子のアオガエルはいつも自分の言うことと反対のことをす  
るので、「川の近くに埋めてね。」と言ったら、息子のアオガエルはきっと山に  
う おも  
埋めてくれると思っていたのです。

かあ し むすこ なんにちかん な  
お母さんが死んで、息子のアオガエルは 何日間も泣きました。  
そして、自分がお母さんの言うことを聞かなかったことを後悔しました。

かあ い かあ からだ かわ ちか う はか  
そこで、お母さんの言ったとおりに、お母さんの 体 を川の近くに埋めて、お墓  
つく  
を作りました。

あめ ふ かわ みず ふ  
でも雨がたくさん降ると 川の水が増えます。  
ですから、息子のアオガエルは、 雨が降るといつも、心配で心配で仕方があ  
りません。  
かわ みず かあ はか なが  
というのも、川の水がどっとあふれてきて、お母さんのお墓を流してしまうかも  
しれないからです。



だから、<sup>あめ</sup>雨が<sup>ふ</sup>降ると息子の<sup>むすこ</sup>アオガエルは、「お母さんの<sup>かあ</sup>お墓は<sup>はか</sup>大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>だろうか。ケロケロ、ケロケロ。」と泣<sup>な</sup>きます。

いま<sup>いま</sup>でも雨が<sup>あめ</sup>降るとアオガエルたちは「ケロケロ、ケロケロ」と泣<sup>な</sup>きます。

このお<sup>はなし</sup>話から、<sup>かんこく</sup>韓国では、言<sup>い</sup>われたことと反<sup>はんたい</sup>対のことをする人のことを「アオガエル」と言<sup>い</sup>うそうです。

これは、<sup>にほん</sup>日本の「アマノジャク」と同じ<sup>おな</sup>ですね。

ご  
(542語)

<sup>せんせい</sup>  
鄭景太先生の Web サイト:

<https://ameblo.jp/jtkkorea/entry-12311180552.html>